

和田信義 しんぎ 詩人、隨筆家。明治二十五年九月二十日（岐阜縣大垣  
 生れ、昭和十八年六月八日歿（一九四二）。本名信義 ゆきよし。佐久間象山  
 は大叔父に當るといふ。郵便局、出版社に勤務し、雑誌「不平等」の書  
 いた「社會主義神髓」が發禁となる。大正八年大阪に赴き、「日本労働  
 新聞」編輯長に就き、また堺利彦、大杉榮、辻潤、宮島資夫、加藤一  
 夫、川合仁等と親交。十四年には安谷寛一等と「悪い仲間」を發刊。  
 この間詩集一冊を作り、雑誌「新社會」、わが「生活と藝術」等へ寄稿。  
 昭和二年山谷の香真館と全國を渡り歩き、その折の兒聞、體驗から斯  
 東事情を「香真館函義書」（昭和四年五月一日）義書市場社「談可館隨  
 筆」(一)と題して著けす。他に小説集「國際談話秘史出賣買株式會社尙書」(昭  
 和六年七月七日燎原社「エロス・セリーズ」)がある。

